

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 寿山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

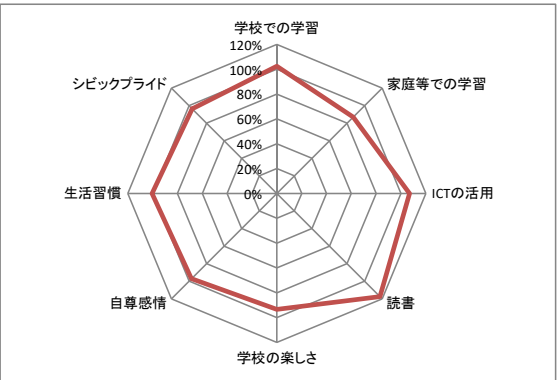
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能の「情報の扱い方」、思考・判断・表現力の「書くこと」の区分で全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の区分で課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図や文章等から情報と情報の関係づけの仕方や、語句の表し方を理解し使うことができるかをみる問題。	
	努力が必要な問題	日常使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題。話し手の考えと比較し、自分の考えをまとめる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数量の変化と関係」「データの活用」の区分では、全国平均並みであるが、「数と計算」の区分で課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	一の位が0の掛け算の計算、正方形の性質を問う問題では、全国平均を上回る正答率である。	
	努力が必要な問題	()を用いた式と加減乗除が混合した計算。割り算のひっ算の仕方を説明する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・算数科の計算領域で課題がみられることから、午後のチャレンジタイムにて、計算問題を中心に復習を行う。
- ・6年生は、2月、3月に「算数のまとめ」において、クラスごとに3人～4人の教員が付き、実態別少数人数での学習を実施し、小学校の算数科学習の徹底を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の時間に課題があることから、学年に応じた家庭学習のモデルを提示する。また、家庭への協力を、懇談会、学校通信、入学説明会等で行う。